

第 28 講 【 病理と病証 IX 】 教科書 P.82～84

【 六腑弁証 】

『 胆の弁証(病証) 』

復習. 『 胆の生理機能 』

- ① 蔵精汁：胆は精汁（胆汁）を貯蔵・排泄する働きを持つ。
- ② 主勇怯：胆は勇気を主り度胸・精神的刺激に対する抵抗力の基礎になっている。

[主な病機]

肝の疏泄失調 中焦湿熱	}	胆の精汁 貯蔵・排泄機能の低下・失調
----------------	---	--------------------

[症 状]

脇下部脹痛、腹部脹痛、口苦、黄疸、脈弦
 ※ 稀に胆虚証が現われる → 少しのことで驚く、強い不安感、優柔不断

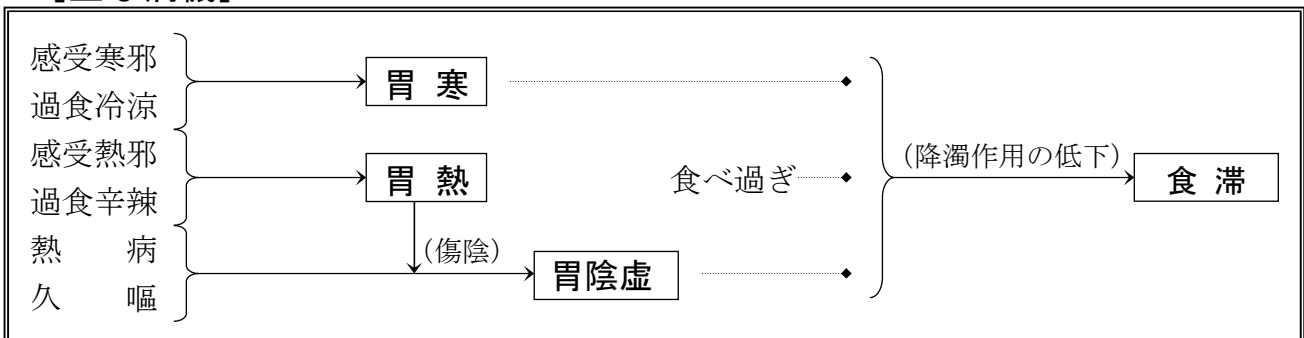
- * 胆の気鬱 → 脇腹部脹痛
- * 精汁上泛 → 口苦
- * 精汁が皮下に漏れる → 黄疸

『 胃の弁証(病証) 』

復習. 『 胃の生理機能 』

- ① 受納・腐熟：水穀を受け入れ初期消化を行う。
- ② 降濁：水穀の濁を小腸へ降ろす。

[主な病機]



[症 状]

胃脘部・上腹部痛、食欲減退・亢進、消化不良、噯気、悪心嘔吐、呃逆

* 胃気上逆 → 噯気、悪心嘔吐、呃逆

① 胃寒証

{ 実 寒：胃脘部痛（強い痛み、冷痛、拒按喜温） + 実寒症状
 虚寒(少见)：胃脘部痛（鈍痛、喜按喜温、食後に軽減） + 虚寒症状

② 胃熱証

{ 実 熱：胃脘部痛（灼熱痛、拒按喜冷）、消穀善飢、口臭 + 実熱症状
 虚 熱：胃脘部痛（喜按喜冷）、嘈雜、知飢不食 + 虚熱症状
 (胃陰虚)

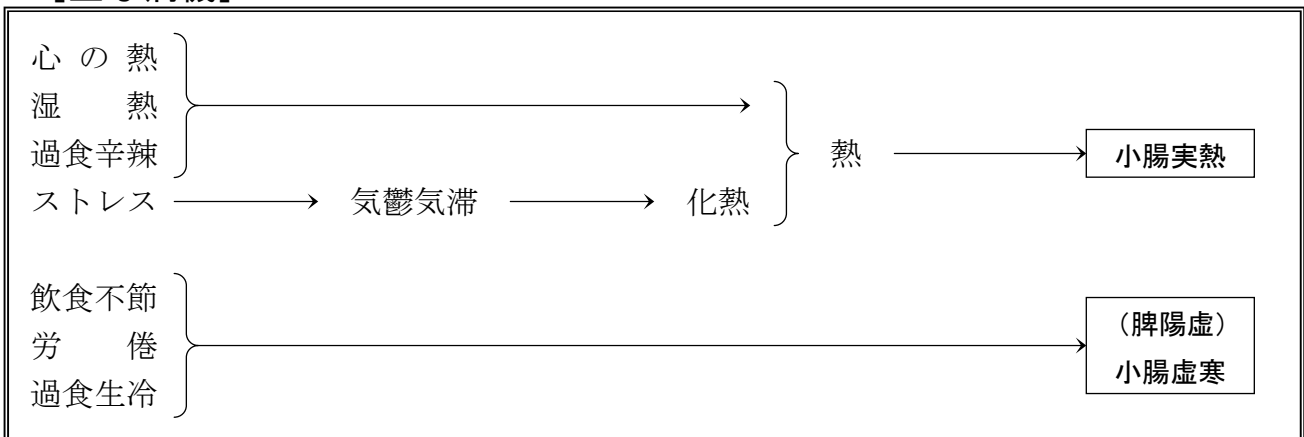
③ 食滯：「食積」ともいう

：食欲不振、厭食、吞酸、噯腐、大便酸臭、舌苔厚膩、脈滑

『 小腸の弁証(病証) 』

：小腸単独の病証は少なく、一般的に[心火亢進証][脾陽虚証]の一部として捉えられている。

[主な病機]



[症 状]

① 小腸実熱 (心火亢進証の一部)

: 心煩口渴、口舌生瘡、小便赤澀、尿道灼痛、血尿、舌紅苔黄、脈数

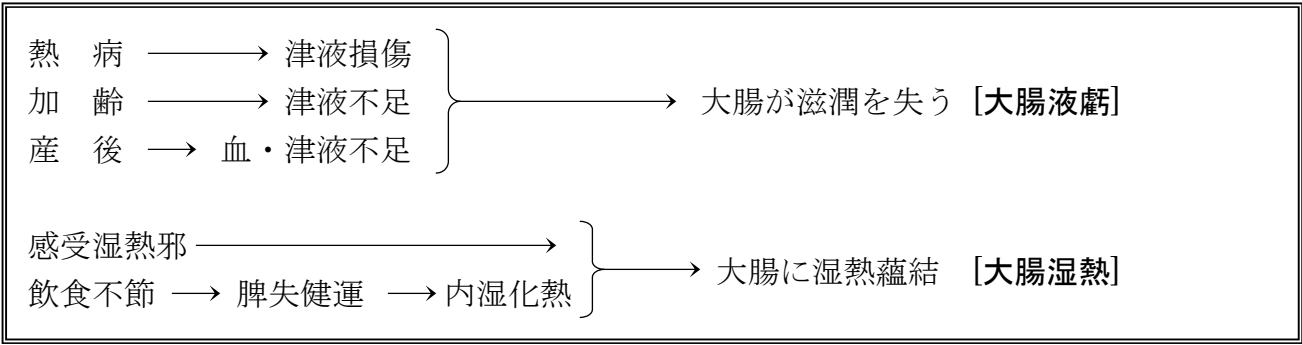
② 小腸虚寒 (脾陽虚証の一部)

: 食後の腹脹、下痢、腹鳴、温めると軽減 等

『 大腸の弁証(病証) 』

: 大腸の働きは[糟粕]からの水分吸収と排泄である。

[主な病機]



[症 状]

① 大腸液虧

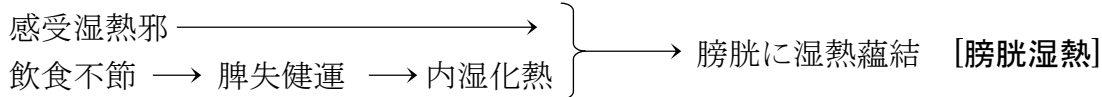
: 大便燥結・排出困難、舌紅少津、苔黄燥

② 大腸湿熱

: 腹痛、膿血便、裏急後重、或いは突然の激しい下痢、肛門灼熱痛、口渴不欲飲、尿短赤、舌紅、苔黄膩、脈滑数・濡数

『 膀胱の弁証(病証) 』

[主な病機]



[症 状]

① 膀胱湿熱

：尿意切迫、頻尿、排尿痛、尿しぶり、尿混濁、血尿、小腹部脹痛、或いは発熱・腰痛、或いは尿結石、舌紅、苔黄膩、脈滑数・濡数

※ 癃閉（排尿不利）、遺尿、尿失禁 等の症状は腎陽虚証や腎気不固証等による症状として捉えられる。

『 三焦の弁証(病証) 』

：三焦の働きは[気][血][津液]の代謝を順調に行うことである。

故に三焦の病証とは

